

平成 29 年 11 月 29 日、政策秘書課職員との話です。

## チャレンジ

ある市民の方が、子どもの貧困や発達障害についての全国大会に参加したところ、大会の結論は「希薄な人間関係が問題である」だったそうです。しかし、どうしたら希薄な人間関係を再び濃くできるのかという議論はなかったとおっしゃっていました。

人間関係を再び濃くするのは、簡単なことではありません。「これをすれば、必ずつながりが生まれる」という全国一律の方法もありません。

あえて今、長久手市は、そのつながりづくりにチャレンジをしています。

本来、つながりづくりは、市役所が旗振り役をするものではなく、地域にもともと根付いていたり、必要性を感じて自発的にできたりするものかもしれません。

実際、本市の東部地域は、「面倒なんだよなあ」と言いながらも、みんなで少しずつ努力して、我慢して、わずらわしい顔の見える関係を続けていらっやいます。災害が起こっても、きっと東部地域は、互いに声を掛け合い、助け合うことができるでしょう。一方で、名古屋市に近い西部地域は、土地区画整理事業によって新しい道を作り、街区を作ったことで、きれいな街並みになり、快適で、便利になりましたが、それによって区画整理以前にあった昔ながらのコミュニティを分断することにもなってしまいました。そこへ市外からどんどん新しい方が引っ越して来られ、その多くは、今は地域と関わりがない状態です。

行政の財政が厳しくなり、これまでのようには行政サービスが提供できなくなる

時代が必ずやってきます。そのときに「互いに支え合えるつながりが必要だ」と気付いても遅いのです。しかし、単に「はい、つながりましょう！」とか「特典をあげるから、つながってください」とお願いしたとしても、そんな簡単に市民どうしがつながることはないでしょう。だからこそ、市役所がつながりづくりを仕掛けていかなければならないのです。



一つのきっかけとして、計画づくりへの参加を呼びかけています。知らないどうしでも、「自分の暮らすまちが、将来、こうなったらいいな」という話ならで

きるはずで、そして、そこから顔見知りになること、つながりが生まれることを期待しています。そのほかにも、まちづくり協議会の設立や地域共生ステーションの整備等についても、話し合いへの参加を呼び掛けています。

こうした取組に対し、「行政が決めて、行政の責任で、今すぐやればいい」「どこまでを市民がやらないといけないのか」という声もいただいています。

組織や建物を作るだけが目的なら、行政が決めて、行政だけで進めていけばいいかもしれませんが、しかしそれでは、市民どうしのつながりは生まれません。施設も、市長がテープカットして「さあ、使ってください」ではなく、計画の段階から、多くの人に使ってもらうために必要な機能は何か、市民と行政と一緒に話し合うことで、本当に活用される施設になっていくのではないのでしょうか。

話し合いでは、いろいろな意見を持っている人がいるので、もめたり、時にはケンカしたりすることもあるでしょう。しかし、そうしたことを乗り越えて、初めて、人はより深く関わり合うことができるのではないのでしょうか。

今、本市があえてチャレンジしている、つながりづくりは、市民のみなさんにとって、面倒でわずらわしいことかもしれませんが、しかし、この取組は、今の時代を生きる私達のためだけではなく、未来の子ども達のためでもあるのです。



～市長の話聞いて～

先日、営利が求められる団体でありながら、施設整備の計画段階において、当初の予定より大幅な時間をかけて関係者との話し合いを行い、施設を建設した団体の方にお話を伺いました。

私から「早く施設を作れば、それだけ早く利益が入ってくるのに、なぜ、予定を大幅に超える時間を話し合いに掛けたのか」と質問したところ、「時間がかかっても、関わる人が増えれば増える分だけ、オープンしたときには、既に応援団がたくさんいる施設になる。時間をかけた分だけ、多くの人に愛着がある施設になる。その方が大事だと考えているからだ」との答えでした。また、「人口が減ることは、行政だけが成り立たなくなるのではなく、民間事業者も立ち行かなくなる可能性があるということ。だからこそ、地域づくり、まちづくりが大事なんだ」と背中を押していただきました。